

第 26 回生命科学研究科シンポジウム開催報告

高次生命科学専攻 ゲノム維持機構学分野

松本 智裕

2025 年 6 月 12 日に、第 26 回生命科学研究科シンポジウムを芝蘭会館・稲盛ホールにて開催致しました。朝 9 時 30 分から夕方 6 時 05 分までのシンポジウムには計 299 名の参加をいただきました。好評であった昨年の発表演題の分類法を踏襲し、研究対象となる生命現象に基づいて 6 つのセッション（シグナル伝達、ゲノムから染色体、運命決定、健康と創薬、感染と共生、そして英語セッション）を設け、計 25 名の教員にご講演頂きました。今年は、統合生命科学専攻からは研究室を主宰する教授に、一方、高次生命科学専攻からは教授以外の先生方に、さらに、今年 4 月以降に着任された先生方に、最新の研究成果を発表して頂きました。それぞれの講演の後の質疑応答では活発な議論が交わされました。時間の都合上、全ての質問に対応できなかったことをこの場をお借りしてお詫びいたします。

多くの先生方から、「多彩な話題に恵まれたシンポジウムであった」との感想をいただきました。ウィルスからヒトに至るほぼ全てのモデル生物について、伝統的な遺伝学的なアプローチから、最新顕微鏡技術による分子の構造や動態の解析、さらにビッグデータの収集と解析まで、さまざまな手法を駆使して、基礎生物学から医療応用を目指す研究がなされていることが示されたシンポジウムでした。生命科学研究科は昨年で創立 25 周年を迎えました。今回のシンポジウムは、次の 25 年間を見据えた出発点とも考えられます。このような重要な機会に、多彩で、しかも世界トップレベルの話題に満ちたシンポジウムを開催し、生命科学研究科の底力を目の当たりにできたことを大変嬉しく思います。

ご講演下さった先生方、および各セッションの進行を円滑に進めて下さった座長の先生方に御礼申し上げます。また、準備のために多大なるご尽力を頂きました研究科総務掛はじめとする事務室の皆様、さらに会場準備から当日の進行・運営を円滑に進めていただいた原田研究室の大学院生の皆さんに感謝いたします。

なお、シンポジウム後の情報交換会は、時計台下の国際交流ホールで開催しました。情報交換会においても、174 名の参加があり、シンポジウムでの質疑応答に引き続くディスカッション、様々な情報交換など、普段は顔を合わせる機会のない学生同士・教員同士の非常に良い交流の場ともなったと思います。



新任教員の講演の様子（左から角野准教授、甲斐教授、岩田教授）